

地 理 歴 史

改訂のポイント 1

改訂の基本方針について

今回の改訂は平成 28 年 12 月の中央教育審議会答申を踏まえて行われており、全ての教科等の目標や内容が、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で再整理されている。これを踏まえ、改訂の基本的な考え方を、次の 3 点に集約することができる。

- ① 基礎的・基本的な「知識及び技能」の確実な習得
- ② 「社会的な見方・考え方」を働かせた「思考力、判断力、表現力等」の育成
- ③ 主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成

改訂のポイント 2

科目編成等について

今回の改訂において、科目編成並びに標準単位数については次のとおりである。

科目	標準単位数
地理総合	2
地理探究	3
歴史総合	2
日本史探究	3
世界史探究	3

なお、全ての生徒に履修させる科目である「地理総合」を履修した後に選択科目である「地理探究」を、同じく全ての生徒に履修させる科目である「歴史総合」を履修した後に選択科目で

ある「日本史探究」、「世界史探究」を履修できることとしている。

改訂のポイント 3

内容構成の改善について

まず、各科目の内容構成については、中央教育審議会答申で示された「教育課程の示し方の改善」を踏まえ、原則として、記載の体裁を次のように整えている。

- ① 各科目において、大項目を A、B、C…の順で示す。
- ② 大項目を構成する中項目を (1)、(2)、(3)…の順で示し、さらに必要に応じてそれを細分化した小項目を設定する。
- ③ 各中項目においてア、イを置き、それぞれ原則的に「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」の順に、それぞれの事項におけるねらいを記載する。

改訂のポイント 4

学習指導の改善について

地理歴史科において、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた学習指導の改善のための留意事項は次の点である。

- ① 単元など内容や時間のまとまりを見通した地理歴史科ならではの「問い」を設定すること。
- ② 「社会的な見方・考え方」を用いた考察、構想や、説明、議論等の学習活動が組み込まれ、社会的事象等に関わる課題を追究したり解決したりする活動が取り入れられること。
まず、「主体的な学び」のためには、生徒が学習課題を把握しその解決への見通しを持つことが必要である。そこで、地理歴史科ならではの「問い」が設定され、単元等を通じた学習過程の中で動機付けや方向付けが重視されるとともに、振り返りの場面が設定されることが大切となる。また、「対話的な学び」については、調べ学習などの活動の一層の充実が期待される

が、活動が優先され内容が深まらないといった課題が指摘されることから、「深い学び」の実現のためには、「社会的な見方・考え方」を用いた考察等の学習活動が重要となる。

しかし、現行学習指導要領の一つの課題として、「社会的な見方や考え方については、その全体像が不明確であり、それを養うための具体策が定着するには至っていない」ことが示されている。

このことから、中央教育審議会答申では、次のように「社会的な見方・考え方」をまとめている。

「社会的な見方・考え方」は、課題を追究したり解決したりする活動において、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の視点や方法であると考えられる。

このまとめを踏まえ、今回の改訂では、各科目の特質に応じて、地理領域科目、歴史領域科目の「社会的な見方・考え方」をそれぞれ次のように整理している。

地理領域科目では「社会的事象の地理的な見方・考え方」として、「社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や他地域の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付け」、歴史領域科目では「社会的事象の歴史的な見方・考え方」として、「社会的事象を時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付けたりし」て働かせるもの

改訂のポイント 5

「地理総合」について

中央教育審議会答申を受けて、「地理総合」は次のような考え方で設置された。

- ① 持続可能な社会づくりを目指し、環境条件と人間の営みとの関わりに着目して現代の地理的な諸課題を考察する。
- ② グローバルな視座から国際理解や国際協力の在り方を、地域的な視座から防災などの諸

課題への対応を考察する。

- ③ 地図や地理情報システム（GIS）などを用いることで、汎用的で実践的な地理的技能を習得する。

改善・充実の要点は、主に次の6点である。

- ア 「社会的事象の地理的な見方・考え方」に基づく学習活動の充実
- イ 「主題」や「問い」を中心に構成する学習の展開
- ウ 地図や情報システムを活用して育む汎用的で実践的な地理的技能
- エ グローバルな視座から求められる自他の文化の尊重と国際協力
- オ 我が国をはじめとする世界や生徒の生活圏における自然災害と防災
- カ 持続可能な地域づくりのための地域調査と地域展望

内容の大項目、中項目は次のとおりである。

大項目Aでは現代世界を捉えるための地理的技能の習得を、大項目Bでは現代世界の多様性や諸課題に関する理解を、大項目Cでは我が国の持続可能な社会づくりに関する地理的認識を、それぞれ主な学習内容としている。

- A 地図や地理情報システムで捉える世界
 - (1) 地図や地理情報システムと現代世界
- B 国際理解と国際協力
 - (1) 生活文化の多様性と国際理解
 - (2) 地球的課題と国際協力
- C 持続可能な地域づくりと私たち
 - (1) 自然環境と防災
 - (2) 生活圏の調査と地域の展望

改訂のポイント 6

「地理探究」について

中央教育審議会答申を受けて、「地理探究」は「地理総合」の学習を前提に、地理の学びを一層深め、生徒一人一人が「生涯にわたって探究を深める」その端緒となるよう、系統地理的学習、地誌的学習を行った上で、最後に我が国

の地理的な諸課題を探究することをねらいとする、選択履修科目として設置された。

改善・充実の要点は、主に次の5点である。

- ア 「社会的事象の地理的な見方・考え方」に基づく学習活動の充実
- イ 「主題」や「問い」を中心に構成する学習の展開
- ウ 大項目Cの前提としての系統地理的考察と地誌的考察
- エ 「現代世界の系統地理的考察」における「交通・通信、観光」の項目化
- オ 「現代世界におけるこれからの日本の国土像」を問う探究項目の充実

内容の大項目、中項目は次のとおりである。大項目Aでは現代世界における地理的な諸事象の規則性や傾向性の理解を、大項目Bでは現代世界の諸地域の構造や変容の理解を、大項目Cでは現代世界におけるこれからの日本に求められる国土像に関する地理的認識を、それぞれ主な学習内容としている。

- A 現代社会の系統地理的考察
 - (1) 自然環境
 - (2) 資源、産業
 - (3) 交通・通信、観光
 - (4) 人口、都市・村落
 - (5) 生活文化、民族・宗教
- B 現代世界の地誌的考察
 - (1) 現代世界の地域区分
 - (2) 現代世界の諸地域
- C 現代世界におけるこれからの日本の国土像
 - (1) 持続可能な国土像の探究

大項目Cの(1)については、この科目のまとめとして位置付けられており、学習指導の展開例が次のとおり示されている。

- 1 課題の把握
 - ① 課題の設定
 - ② 事前調査
 - ③ 課題解決の見通し（仮説の設定、調査

- 計画の作成)
- 2 課題追究
 - ① 情報収集、調査
 - ② 考察・構想
- 3 課題解決
 - ① 提案、討論
 - ② まとめ
- 4 新たな課題
 - ① 振り返り

改訂のポイント 7 「歴史総合」について

中央教育審議会答申を受けて、「歴史総合」は次のような考え方で設置された。

- ① 世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉えて、近現代の歴史を理解する。
- ② 歴史の推移や変化を踏まえ、課題の解決を視野に入れて、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察する。
- ③ 歴史の大きな転換に着目し、単元の基軸となる問いを設け、資料を活用しながら、歴史の学び方（「類似・差異」、「因果関係」に着目する等）を習得する。

改善・充実の要点は、主に次の6点である。

- ア 「社会的事象の歴史的な見方・考え方」に基づく学習活動の充実
- イ 「主題」や「問い」を中心に構成する学習の展開
- ウ 単元や内容のまとまりを重視した学習の展開
- エ 歴史の大きな変化に着目し、世界とそこの中を日本を広く相互的な視野から捉える内容の構成
- オ 資料を活用し、歴史の学び方を習得する学習
- カ 現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察する学習

内容の大項目、中項目は次のとおりである。「歴史総合」では、近現代の歴史の大きな変化

を「近代化」、「国際秩序の変化や大衆化」、「グローバル化」と表し、現代の社会の基本的な構造がどのような歴史的な変化の中で形成されてきたのか、それは生徒自身が向き合う現代的な諸課題とどのように関わっているのかなどについて生徒が課題意識をもって考察できるよう、四つの大項目で構成されている。大項目Aでは、日常生活や身近な地域などに見られる諸事象が、時間的な推移や空間的な結び付きの中で歴史とつながっていること、資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解できるように内容が構成されている。大項目Bでは、産業社会と国民国家の形成を背景として、人々の生活や社会の在り方が変化したこと、大項目Cでは、政治、外交、経済、思想や文化などの様々な面で国際的な結び付きが強まり、国家間の関係性が変化したことや個人や集団の社会参加が拡大したことを背景として、人々の生活や社会の在り方が変化したこと、大項目Dでは、科学技術の革新を背景に人・商品・資本・情報等が国境を越えて一層流動するようになり、人々の生活や社会の在り方が変化したことを扱う。

A 歴史の扉

- (1) 歴史と私たち
- (2) 歴史の特質と資料

B 近代化と私たち

- (1) 近代化への問い
- (2) 結びつく世界と日本の開国
- (3) 国民国家と明治維新
- (4) 近代化と現代的な諸課題

C 国際秩序の変化や大衆化と私たち

- (1) 国際秩序の変化や大衆化への問い
- (2) 第一次世界大戦と大衆社会
- (3) 経済危機と第二次世界大戦
- (4) 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題

D グローバル化と私たち

- (1) グローバル化への問い
- (2) 冷戦と世界経済

- (3) 世界秩序の変容と日本
- (4) 現代的な諸課題の形成と展望

大項目Dの(4)については、この科目のまとめとして位置付けられており、学習指導の展開例が次のとおり示されている。

- ①主題の設定と学習上の課題（問い）の表現
（※生徒自ら課題を設定する。）
- ②資料の収集・分析
- ③考察・構想
- ④まとめ・表現
- ⑤学習の振り返り

改訂のポイント 8

「日本史探究」について

中央教育審議会答申を受けて、「日本史探究」については、「歴史総合」を踏まえ、従前の「日本史A」、「日本史B」のねらいを発展的に継承しつつ、我が国の歴史の展開について総合的な理解を深め、各時代の展開に関わる概念を活用して多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し、地域や日本、世界の歴史の関わりを踏まえ、現代の日本の諸課題とその展望を探究する力を養うことをねらいとする、選択履修科目として設置された。

改善・充実の要点は、主に次の6点である。

- ア 「社会的事象の歴史的な見方・考え方」に基づく学習活動の充実
- イ 「主題」や「問い」を中心に構成する学習の展開
- ウ 単元や内容のまとまりを重視した学習の展開
- エ 「歴史の解釈、説明、論述」を通じた知識、概念の深い理解と思考力、判断力、表現力等の育成の一層の重視
- オ 資料を活用し、歴史の学び方を習得する学習
- カ 歴史的経緯を踏まえた現代の日本の課題の探究

内容の大項目、中項目は次のとおりである。
「歴史総合」の学習で獲得した技能や歴史の学び方を活用し、我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを考察し、歴史的経緯を踏まえて、現代の日本の課題を探究できるよう四つの大項目で構成されている。大項目A、B、C及びDは、この順で扱うこととされている。

各大項目においては、(1)では時代の転換から考察する「時代を通観する問い」を表現し、(2)では時代の特色を示す資料を活用して「仮説」を形成し、(3)では主題を踏まえて考察や理解をする構造となっている。

- | |
|---|
| <p>A 原始・古代の日本と東アジア</p> <p>(1) 黎明期の日本列島と歴史的環境</p> <p>(2) 歴史資料と原始・古代の展望</p> <p>(3) 古代の国家・社会の展開と画期（歴史の解釈、説明、論述）</p> <p>B 中世の日本と世界</p> <p>(1) 中世への転換と歴史的環境</p> <p>(2) 歴史資料と中世の展望</p> <p>(3) 中世の国家・社会の展開と画期（歴史の解釈、説明、論述）</p> <p>C 近世の日本と世界</p> <p>(1) 近世への転換と歴史的環境</p> <p>(2) 歴史資料と近世の展望</p> <p>(3) 近世の国家・社会の展開と画期（歴史の解釈、説明、論述）</p> <p>D 近現代の地域・日本と世界</p> <p>(1) 近代への転換と歴史的環境</p> <p>(2) 歴史資料と近代の展望</p> <p>(3) 近現代の地域・日本と世界の画期と構造</p> <p>(4) 現代の日本の課題の探究</p> |
|---|

大項目Dの(4)については、この科目のまとめとして位置付けられており、学習指導の展開例が次のとおり示されている。

- | |
|---|
| <p>①主題の設定と学習上の課題（問い）の表現
 （※生徒自ら課題を設定する。）</p> <p>②仮説の設定と諸資料の活用</p> |
|---|

- | |
|---|
| <p>③仮説の吟味や妥当性の考察</p> <p>④学習の成果の発表と対話（歴史の論述）</p> |
|---|

<p>改訂のポイント 9 「世界史探究」について</p>

中央教育審議会答申を受けて、「世界史探究」については、「歴史総合」の学習を踏まえ、従前の「世界史A」、「世界史B」のねらいを発展的に継承しつつ、諸地域の歴史的特質の形成、諸地域の交流・再編、諸地域の結合・統合という構成に沿って、世界の歴史の大きな枠組みと展開について理解を深め、地球世界の課題とその展望を探究する力を養うことをねらいとする、選択履修科目として設置された。

改善・充実の要点は、主に次の6点である。

- | |
|--|
| <p>ア 「社会的事象の歴史的な見方・考え方」に基づく学習活動の充実</p> <p>イ 「主題」や「問い」を中心に構成する学習の展開</p> <p>ウ 単元や内容のまとまりを重視した学習の展開</p> <p>エ 世界の歴史の大きな枠組みと展開を捉える内容の構成</p> <p>オ 資料を活用し、歴史の学び方を習得する学習</p> <p>カ 歴史的経緯を踏まえた地球世界の課題の探究</p> |
|--|

内容の大項目、中項目は次のとおりである。
「世界史探究」では、それぞれの大項目が一つの学習のまとまりを示しており、それぞれにおいて課題を追究したり解決したりする活動を通して学習が展開するよう構成されている。地球世界につながる諸地域の社会や文化の多様性や複合性について段階的に考察を深めることができるよう、四つの大項目で構成されている。大項目Aは、高校で初めてまとまって世界の歴史を学ぶ生徒に興味・関心をもたせることをねらいとして、科目の導入的性格を有するものであり、中学校社会科との接続や「歴史総合」で習

得した成果に配慮し、人類の生存基盤をなす自然界に見られる諸事象や日常生活に見られる諸事象を扱う。大項目BからDについては、世界の歴史の大きな枠組みと展開を、諸地域を軸にその歴史的特質の形成、交流・再編、結合・変容から構造的に理解することをねらいとしている。大項目Eは、持続可能な社会の実現を視野に入れて、生徒自身が設定した主題を多面的・多角的に探究し、世界とその中の日本を展望することをねらいとしている。大項目A、B、C、D及びEは、この順で扱うこととされている。

大項目B、C及びDにおいては、(1)では生徒が問いを表現し、(2)、(3)及び(4)では資料を活用して課題を考察する構造となっている。

- | |
|--|
| <p>A 世界史へのまなざし</p> <p>(1) 地球環境から見る人類の歴史</p> <p>(2) 日常生活から見る世界の歴史</p> <p>B 諸地域の歴史的特質の形成</p> <p>(1) 諸地域の歴史的特質への問い</p> <p>(2) 古代文明の歴史的特質</p> <p>(3) 諸地域の歴史的特質</p> <p>C 諸地域の交流・再編</p> <p>(1) 諸地域の交流・再編への問い</p> <p>(2) 結びつくユーラシアと諸地域</p> <p>(3) アジア諸地域とヨーロッパの再編</p> <p>D 諸地域の結合・変容</p> <p>(1) 諸地域の結合・変容への問い</p> <p>(2) 世界市場の形成と諸地域の結合</p> <p>(3) 帝国主義とナショナリズムの高揚</p> <p>(4) 第二次世界大戦と諸地域の変容</p> <p>E 地球世界の課題</p> <p>(1) 国際機構の形成と平和への模索</p> <p>(2) 経済のグローバル化と格差の是正</p> <p>(3) 科学技術の高度化と知識基盤社会</p> <p>(4) 地球世界の課題の探究</p> |
|--|

大項目Eの(4)については、この科目のまとめとして位置付けられており、学習指導の展開例が次のとおり示されている。

- | |
|---|
| <p>①主題の設定と学習上の課題（問い）の表現
（※生徒自ら課題を設定する。）</p> |
|---|

- | |
|--|
| <p>②主題の探究（見通しを立てる、地球世界の課題の把握、予想や仮説を立てる）</p> <p>③考察・構想</p> <p>④まとめ・表現</p> |
|--|

改訂のポイント 10 配慮事項等について

指導計画作成上の配慮事項は、以下の4点である。

- ① 主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。
- ② 公民科などとの関連を図るとともに、地理歴史科に属する科目相互の関連に留意しながら、全体としてのまとまりを工夫すること。
- ③ 「地理総合」を履修した後に選択科目「地理探究」を、「歴史総合」を履修した後に「日本史探究」、「世界史探究」を履修させること。
- ④ 障がいのある生徒などについて、困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。

また、内容の取扱いに当たっての配慮事項は以下の4点である。

- ① 言語活動に関わる学習を一層重視すること。
- ② 調査や諸資料から情報を効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける学習活動を重視すること。
- ③ 生徒が多面的・多角的に考察したり、公正に判断したりすることを妨げることのないように留意すること。
- ④ 情報手段を積極的に活用し、指導に生かすことで、生徒が主体的に取り組めるようにすること。また、情報モラルの指導にも配慮すること。

さらに、内容の指導に当たっては、教育基本法第14条及び第15条の規定に基づき、適切に行うよう特に慎重に配慮して、政治及び宗教に関する教育を行うものとすることが言及されている。